

ついに東京でも開催！ ニューヨークで話題のTap Projectとは？

TAP TOKYO 始動！

デザインの力を通して水に関する問題の解決に貢献できないか——。
そんな思いから、あるクリエイティブディレクターが発案し、ニューヨークで始まった
チャリティキャンペーン、Tap Project。レストランで普段は無料の水を一杯1ドルとすることで
募金を集めるこのチャリティプロジェクトが、今年ついに東京でも開催される。



浅井広美、戎谷康宏=写真
photographs by Hiromi Asai, Yasuhiro Ebisuya
text by Esquire Japan



NY発、世界に波及するTap Project。

広告業界では知らない人はいないほどの敏腕クリエイティブディレクター、デビッド・ドロガ。Droga5という広告エージェンシーを代表するドロガが、『エスカイア』米国版編集部のリクエストに応じて立ち上げたのがTap Projectだ。2007年にニューヨークで始まったこのプロジェクトは多くの人の心をつかみ、今も確実に活動の輪を広げている。



『エスカイア』米国版（2006年12月号）に掲載されたTap Projectの広告図面。ドロガはこの号の特集「Best & Brightest」にフィーチャーされた。

時は2006年9月、NYにある「エスカイア」米国版編集部でのこと。その年最も輝いた人物を特集する「Best & Brightest」特集の発行を前に、クリエイティブディレクターとして数々のアワードを受賞してきた、デビッド・ドロガとのミーティングが行われた。ドロガは特集を飾る人物の一人だったが、このミーティングでは通常のインタビュー取材は行われず、代わって一つのリクエストがドロガに手渡された。

そのリクエストとは、「エスカイア」誌面上の1ページを自由に使用してかまわないから、そこでドロガが持つ発想のパワーを深遠に発揮して欲しい、というものだった。

翌10月、ドロガがそのリクエストに対する答えとして提案したのは「Tap Project」。レストランで普段は無料で給仕される水を有料とし、そこで集まった金を募金として水に関するさまざまな問題に取り組むユニセフに寄付するというものだった。広告とは、端的にいえばクリエイティブと呼ばれるグラフィックやコマース、ヤルを媒介として消費者を購買行動へと誘導するメディアだが、ドロガはこのプロジェクトで単なる購買行動ではなく、チャリティへの募金というアクションを促す仕組みを考え出したのだ。もちろんクリエイティブは、すべてドロガが手掛けた。

「発展途上国における水の問題はとても深刻です。ユニセフは状況改善のためさまざまな活動を行っています。私が、私もこの問題に対する意識の喚起を図る今までの広告を制作するのではなく、より大きな意味のあることができないかと考えたのです」とドロガは説明する。

実際、ユニセフの統計によると、清潔で安全な飲料水を手に入れない人の数は8億人以上にのぼり、毎日4000人を超える子どもが、安全な飲み水や、適切な衛生設備がないため病気にかり命を落としているという。

「私個人では、ビル・ゲイツのような何十億ドルもの寄付はできません。でも私が創り出すクリエイティブの力でこの問題の改善に貢献できるかもしれないと考えたのです」

こうして立ち上げられた「Tap Project」は時を置かず実行に移され、2007年3月、NYを舞台に第1回が行われた。国連が定める「世界の水の日」（3月22日）に際して、このプロジェクトに賛同するカフェやレストランで給仕される水を一杯1ドルとして募金を集めた。各界の著名人やメディアの注目を集めたこのプロジェクトには300近い飲食店が参加し、最終的に10万ドルの募金全額がユニセフに寄付された。



ニューヨークのにぎわいをみせるタイムスクエアでもTap Projectの広告が目見えた。



David Droga

オーストラリアのリゾートタウンで生まれ育ったドロガ。子どもの頃はスキーのインストラクターになって世界中を旅するのが夢だったというが、現在は、スキーヤーとしてはなく、クリエイティブディレクターとして世界を飛び回る。Saatchi & Saatchiなどでクリエイティブディレクターを歴任した後、2006年ニューヨークで自身の広告エージェンシーDroga5を立ち上げる。クライアントは、ユニセフをはじめ、コカコーラ、MTVなど多数。

参加レストランを一挙公開! (現在も増加中です)



Mar.20 - 22 2009

Special of the Day
TOKYO TAP WATER¥100

TAP TOKYOは下記レストランの賛同のもと、2009年3月20日(金・祝)~22日(日)の3日間行われます。

渋谷・青山エリア ○ ラ・ロシェル 渋谷本店 ○ ラ・ロシェル 南青山店 ○ Les Créations de NARISAWA (レ・クレアシヨンド・ナリサワ) ○ RISTORANTE LUPINA (リストランテ・ルピナ) ○ TATSUYA KAWAGOE (タツヤ・カワゴエ) ○ Osteria Lucca (オステリア・ルッカ) ○ ZETTON ebisu (ゼットン・エビス) ○ SELAN (セラン) ○ レストランテ・濱崎 ○ 吉住 ○ szechwan restaurant 陳 (スzechwanレストラン・陳) ○ 賛否両論 ○ なすび亭 ○ AQUAVIT (アクアヴィット) ○ beacon ○ MIST ○ 海味 ○ 神楽軒 (じんらんけん) 麻布・六本木・白金エリア ○ ahili 西麻布 ○ Salon du Gout (サロン・ドゥ・グー) ○ THE HOUSE ○ Al Porto (アル・ポルト) ○ レストラン キャンティ 飯倉本店 ○ レストラン キャンティ 西麻布店 ○ 麻布長江 香福楼	○ CICADA ○ Il Mulino New York (イル・ムリーノ・ニューヨーク) ○ 権うち 銀座・日本橋エリア ○ ahili 銀座 ○ キハチ 銀座本店 ○ LA BETTOLA da Ochiai (ラ・ベッタ・ダ・オチアイ) ○ LA BETTOLA bis (ラ・ベッタ・ビス) ○ DA PEPPINO (ダ・ペピノ) ○ 銀座ロビー ○ ギンザ吉香 (ギンザ・ギョウカ) ○ shiokara (シオカラ) ○ ニホンバシ イチノイチノイチ ○ MUSEUM CAFE ○ RISTORANTE AL KENTRE (リストランテ・アル・ケンタレ) 品川エリア ○ 又キチヤ ○ T.Y.HARBOR BREWERY ○ グランド・セントラル・オイスターバー&レストラン 品川店 ○ 7025 Franklin Ave. (フランクリン・アベニュー) 赤坂エリア ○ orangé (オランジェ) ○ grigio la tavola (グリージョ・ラ・ターヴォラ)	三軒茶屋エリア ○ Guccina (グッチーナ) ○ Il Chiasso (イル・キアッソ) 自由が丘エリア ○ レストラン キャンティ 自由が丘店 千代田・文京エリア ○ 食堂BAR カスミガセキ ○ 藤越 三四郎 ○ ちゃぶ屋 丸の内エリア ○ グランド・セントラル・オイスターバー&レストラン 丸の内店 新宿エリア ○ オテル・ドゥ・ミクニ 浅草エリア ○ 中国小栗 輪画 有明エリア ○ TRATTORIA Al Porto (トラットリア・アル・ポルト) 杉並エリア ○ Authentique (オーセンティック) 横浜エリア ○ Aloha Table Ocean Breeze (アロハ・テーブル・オーシャン・ブリーズ)	○ A&P with terrace ○ 四五六薬館 本館 ○ 藤越 中村屋 埼玉エリア ○ Lanai Hawaiian Natural Dishes (ラナイ・ハワイアン・ナチュラール・ディッシュ) (2009年1月31日現在)
--	---	---	--

「食を通しての人間教育、食育は僕にとってとても重要なテーマです。食育には、食の安心・安全のみならず、食糧問題や水の問題、ひいてはエコロジーの問題も含まれます。つまりTap Projectは僕の日々の活動の延長線上に位置する具体的な運動といえるのです。食を通していろいろなことをみなさんに伝えていくことができます。人を思いやる心だとか、人間としてのあり方だとか、その可能性は無限にあります。だからこそこのTap Projectは一つのムーブメントとして大変大きな意味を持っていると思います」





「TAP TOKYO」公式ホームページ <http://www.tapproject.jp>
 「TAP TOKYO」に関する問い合わせ先 日本ユニセフ協会 ☎0120-88-1052 (9:00~18:00 土・日・祝休)
 ※一部のレストランでは実施期間が異なります。

Tap Projectが起こした波がついにTokyoにも到達。

ドロガが企画したポスター(下、前ページ)。
 レストランのテーブルに置いたグラスを
 モチーフにチャリティへの賛同を促す
 ヴィジュアルに仕上がっている。



ニューヨークで行われた
 Tap Projectの様子。テーブルには
 プロジェクトの趣旨を説明するカードと一緒に、
 水で遊ぶ子どもの写真も。

「水の問題を本質的に解決していくのは、一人ひとりの思いの力と、結果集まる募金の実質的な金額ですが、その2つを関係付けることでクリエイティブの力が重要な役割を果たすのだと思います」

そう語るのはTap Projectの東京バージョン、Tap Tokyoを主宰するhakuodo+designプロジェクトの永井一史だ。永井もデザインの世界を通して社会的課題の解決に取り組む活動を行っている。



Tap Tokyoでも、レストランのテーブルにプロジェクトの趣旨を説明するカードが置かれる。その趣旨に賛同する場合は、カードの上に募金(100円またはそれ以上)を置いて返さずただで募金完了!



Kazufumi Nagai
 クリエイティブディレクター、hakuodo+designプロジェクトを主宰。デザインを通してソーシャルイシュー(社会的課題)の解決支援に取り組む活動を手掛ける。ドロガに長年ラプコールを送った末のTap Tokyo開催については「楽しみ半分、もう半分で責任の重みを感じている」という。今年は東京のみの開催だが、来年以降は日本全国に展開する予定。

TAP WATERとは?

Tapとは水道の「蛇口」を指し、Tap waterで「水道水」を意味する。レストランに行くと無料で給仕されるのがこのTap waterだが、これを1ドル(またはそれ以上)の有料にして募金として集めるのがTap Project。2007年にニュ

ーヨークで行われた第1回では、女優サラ・ジェシカ・パーカーら著名人の賛同も得て、最終的に10万ドルにおよぶ寄付金を集めた。ちなみに1ドルで、子ども一人に約40日間の清潔な飲料水を提供できるという。